**大津祭**

大津祭は市内最大の祭りで、毎年10月中旬に開催されます。2日間の祭典のなかで、13基の巨大な曳山が天孫神社付近の市街地一帯を回ります。曳山とは山車のことで、京都の祇園祭で用いられる背の高い山鉾と同じ様式です。17世紀に地元の商人が始めた大津祭は、京都の有名な祭りに触発されたものと言われています。

しかし、祇園祭とは異なり、大津祭では山車にからくり人形を乗せるようになりました。これは日本で初めてのことでした。それぞれの曳山は、異なる伝説や民話を描いた特徴的な人形を備えています。自動で動くものもあれば、巨大な木製あやつり人形のように、曳山に乗った演奏者や参加者が操るものもあります（曳山の上の人々は、観客に向かって幸運のお守りもばら撒きます）。時が経つにつれて、日本中の他の祭りでも、祭典に同様のからくり人形を採り入れるようになりました。

それぞれの曳山の背面には特徴的な織物（見送り幕）が飾られており、驚くほど長い歴史をもつ織物もあります。2基の曳山には、教皇から大名に贈られた、トロイ城陥落を描いた16世紀のベルギー製織物が飾られています。現在祭りに使われている曳山は、江戸時代（1603〜1867年）に製作されたものだと考えられています。

大津市の中心部にある大津祭曳山展示館では、祭りに使用する曳山のレプリカが展示されています。2階では、曳山を飾るための木製・金属製の装飾品の数々が入れ替えで展示されています。2ヶ月ごとに別の曳山を取り上げ、それに使用されている精巧な装飾品を展示しています。